

# 「古典的ハリウッド映画」とは

石井 拓洋 (音楽文化学)

女子美術大学非常勤講師

「古典的ハリウッド映画 (The Classical Hollywood Cinema)」とは、アメリカ合州国の映画研究者 デヴィッド・ボードウェル (David Bordwell, 1947～現在) らによる、いわゆるウィスコンシン派の映画研究が 1985 年までに提唱した概念であり、1917 年から 1960 年までのハリウッド映画にみられる「物語映画における語り方の型」を示すものである。また、この時期が「古典的ハリウッド映画期」となる。この概念はボードウェルらが 1985 年に出版した著書 “The classical hollywood cinema: Film style & mode of production to 1960” に纏められたものであった。その平易な解説がみられる別の著作として、映画研究の入門書の位置付けで、彼らは “Film Art: An Introduction” (原著初版は 1979 年に刊行) も刊行しており、その原著第 7 版 (2004 年刊行) が 2007 年に邦訳されている<sup>1</sup>。

「古典的ハリウッド映画」は、2 つの「連続性(continuity)」によって特徴づけられている。つまり 1 つ目に、撮影編集の登場人物の画面内における「位置関係の一貫性」<sup>2</sup> や、断片的な素材同士を一つの時間軸に沿った流れとするものとしての「時空間の連続性」であり、2 つ目に、物語における「登場人物の心理が原因となり、その結果としてアクションが連鎖していく」<sup>3</sup> ものとしての「物語進行の連続性」である。映画研究者で、先の “Film Art: An Introduction” の訳者の一人でもある 北野圭介は、「古典的ハリウッド映画」について、「連続性 (コンティニューイティ) を最大限に目指す映画」<sup>4</sup> と定義づけている。

又、ボードウェルらは、量は少ないが、「古典的ハリウッド映画」期に、映画に付された音楽の特徴も考察している<sup>5</sup>。それは主に物語における機能的な側面に言及したものであり、音楽が連続性や、物語の「語り」、登場人物の心理、状況の設定などに寄与することを指摘したものである。又、映画における音や音楽の〈表れ方〉の分類である「物語

<sup>1</sup> ボードウェル & トンプソン(2004=2007)『フィルム・アート:映画芸術入門』。藤木秀朗(監訳)。名古屋大学出版会

<sup>2</sup> 同前、296。

<sup>3</sup> 同前、87。

<sup>4</sup> 北野圭介 (2001)『ハリウッド 100 年史講義:夢の工場から夢の王国へ』 平凡社新書、61。

<sup>5</sup> Bordwell,D., Janet,S., & Thompson,K. (1985), *The classical hollywood cinema.Film style & mode of*

世界の音 (diegetic sound)」と「非物語世界の音 (nondiegetic sound)」による区分を示した。音楽の機能的な側面の一方、作曲語法的な側面にも触れていて、その時代の音楽が、後期ロマン派のオペラや交響曲に影響をうけたものであり、「ヴァーグナーこそが影響を及した頂点であり、〔略〕ハリウッドの完全なモデルとなった」と述べている。

今日に至るまで世界中で様々な映画が存在してきたが、その全体における「古典的ハリウッド映画」の位置づけについて、ボードウェルらは様々な映画の語り方のシステムの一つにすぎないとしている。しかしながら、かの概念において、それを特に「古典」と名辞した理由については「それが長期にわたって安定し影響力をもったという歴史があるから」とし、又、単なる「映画」ではなくて、特に「ハリウッド映画」として名辞したのは、「この形態をもっとも精巧に形作ったのがアメリカのスタジオ映画作品だと考えられるから」と述べた<sup>6</sup>。このことから「様々な映画の語り方のシステムの一つにすぎない」と述べながらも、その実、この時代の映画をもって映画の語り方の主潮があるとの認識をもっていたものと考えられる。関連して日本の表象文化論学会もまた — 以下のような状況を批判的に捉えた文脈ではあるが —、80年代の一時期に「古典的ハリウッド映画」が、「語りのスタンダードなスタイルを有するとして『古典化』された」と述べ、この概念が有する映画研究分野における参照軸としての存在感を指摘している<sup>7</sup>。

( 初稿 : 2012年1月19日, 改訂 : 2018年9月26日 )

---

*production to 1960*, London, Routledge, 33-35.

<sup>6</sup> ボードウェル & トンプソン(2004=2007) 86.

<sup>7</sup> 表象文化論学会(2007, July, 6) 第3回大会報告

Retrieved : <http://repre.org/repre/vol7/conference03/panel06.html> (retrieval: 2011-11-20)